

# 相国寺御用達

## 京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおりました。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子 俵屋吉富

本店 京都市上京区室町通上立売上ル

電話 (075) 43212211

烏丸店 京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 (075) 43213101

令和二年 正月号(第一二三号)  
圓明

大本山相国寺  
相国会本部

# 迎春

令和二年庚子

## ◆表紙説明

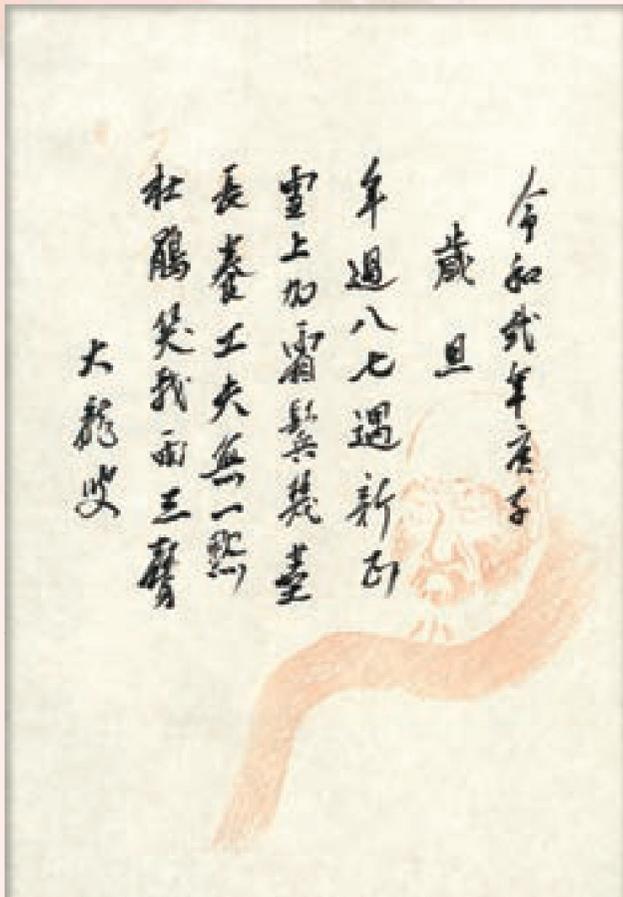
### 「雪の開山堂庭園」

舞い散る雪と寒さに耐える木々  
冬の開山堂は静寂の裡に沈んでゆきます

写真撮影◎教学部



まるにくん©2020相国寺



## 歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底

令和二年 庚子

歳旦

年八七を過ぎ新正に遇う

雪上に霜を加う鬚幾莖びんくけい

長養工夫は一欠も無し

杜鵑とけん我を笑う兩三聲

大龍叟

年八十七を過ぎまた新正にあう

雪上に霜を加う鬚びんすら、耳の周りの髪は幾莖か

休む間もなく修業を続けてきた

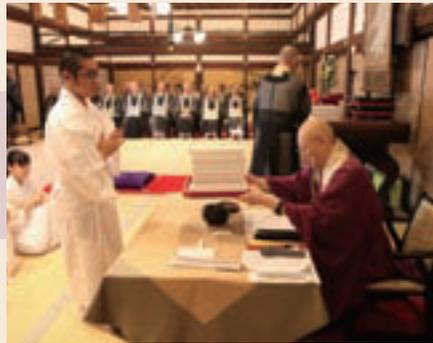
ほととぎすは我を笑う二三聲



戒師の剃刀を受ける戒徒(かいと)



戒文(かいぶん)を読み上げる戒師(かいし)



緒子を受け取る戒徒



方丈にて整列する戒徒



安名(あんみょう)と持鉢(じはつ)を頂く戒徒



開山堂での拝塔



方丈前にて記念撮影



諷経する一同

# 第四回衆団得度式 —十四名が得度— 令和元年七月二十五日

(詳細は、本山だより49ページを参照)

撮影◎教学部

# 慈照寺「銀閣」を守る自衛消防団の訓練

令和元年八月十六日

(詳細は、本山だより51ページを参照)

撮影◎慈照寺



本堂、東求堂(右)ドレンジャーによる放水



放水銃により東求堂へ放水



各班隊員放水状況の報告



地下放水銃からの放水



放水銃により銀閣至近よりの放水



両側の放水銃により銀閣への放水



訓練後、地元消防署による総評をうける



目次

カラテグラビア◎第四回衆団得度式—十四名が得度—

◎慈照寺「銀閣」を守る自衛消防団の訓練

年頭御挨拶……………管長大龍窟有馬頼底

年頭御挨拶……………宗務総長 佐分宗順

年頭御挨拶……………相国會會長 片岡匡三

仏道定款……………大通院 相国寺専門道場師家 小林玄徳

特別寄稿「続・テラワワグの風」(後編)……………第四教区 潮音院住職 鈴木元浩

相国寺の庭園(第七回) 承天閣美術館北庭……………植昭 長岡造園 長岡秀晃

お生命たしかにあずかります……………演劇塾 長田学舎 栗津もと

本山日より……………

坐禅会のご案内……………

教区日より……………

第三十四回「同宗連」部落解放基礎講座レポート…第一教区 豊光寺副住職 佐分昭文

第三十四回「同宗連」部落解放基礎講座レポート…第一教区 長得院副住職 有浦宗健

教化活動委員会活動報告……………教化活動委員会委員長 佐分宗順

相国寺史編纂室日より……………

年忌早見表……………

相国寺 春の特別拝観……………

宝物拝見「鶴鴿 鳩 尾長鳥 鶏図座屏」……………

承天閣日より「ICOMエクスカーション」教育プログラム 小学生団体解説……………

「茶の湯—禅と数寄」展 大西清右衛門氏 記念講演「茶の湯—禅と数寄」……………

心のすがた……………

謹賀新年 令和二年 元旦

相国会総裁 有馬頼底

副総裁 佐分宗順

会長 片岡匡三

本部長 矢野謙堂

令和二年 元旦

管内

管長	承天閣美術館名譽館長	有馬頼底
宗務総長	豊光寺住職	佐分宗順
教務部長	大光明寺住職	矢野謙堂
財務部長	普廣院住職	山木雅晶
財務・庶務部長	豊光寺副住職	佐分昭文
参務	光照寺住職	荒木文紹
教学・庶務部長	長得院副住職	有浦宗健
参務	瑞春院副住職	須賀集信
承天閣美術館館長	養源院住職	平塚景堂
同 事務局長	長栄寺住職	鈴木景雲
同 参事	養源院副住職	平塚景山
鹿苑寺執事長	林光院住職	澤宗泰
同 執事	是心寺住職	和田賢明
(慈照寺執行) 執事	慈照院副住職	久山哲永
同 執事	眞如寺住職	江上正道

宗議會議員

第一教区	慈照院住職	久山隆昭
第二教区	竹林寺住職	牛江宗道
第三教区	見性寺住職	梶谷承忍
第四教区	善應寺住職	五十嵐祖傳
第五教区	眞乗寺住職	木下雅教
第六教区	本誓寺住職	延本輝典
第六教区	感應寺閑栖	芝原一三

宗務支所正副長

第一教区	林光院住職(正)	澤宗泰
	大光明寺住職(副)	矢野謙堂
第二教区	竹林寺住職(正)	牛江宗道
第三教区	相国寺派 庶務部長兼任	
第四教区	眞乗寺住職(正)	木下雅教
	圓福寺住職(副)	田中太眞
第五教区	本誓寺住職(正)	延本輝典
第六教区	感應寺閑栖(正)	芝原一三



U R L <http://www.shokoku-ji.jp>  
 E-mail [kyogaku@shokoku-ji.jp](mailto:kyogaku@shokoku-ji.jp) (教学部)

本誌『円明』のバックナンバーについて、平成20年夏発行の第90号以降は、相国寺派ホームページ内でご覧いただくことが出来ます。

## 謹奉賀新年



管長 大龍窟 有馬頼底

新年明けまして御目出度存じます。

平成往きて令和来たること、よき年になります様  
願いましょう。

昨年十一月二十三日に、来日中のローマ教皇フ  
ランシスコ猊下と、約一年ぶりにお相いしてきました。

それは、三年前にバチカンにおいてフランシスコ

教皇と対談させていただいた際、私が「各地で起こっ  
ている国際紛争は、どうすれば良いのでしょうか」と質  
問したのに対し、教皇は「力では絶対に平和はきませ  
ん。もつと話し合いをなささい。そうすれば必ず道  
はひらけます」といわれました。

そして来日のテーマは、「すべてのいのちを守るた  
め」でした。そうしたら教皇庁から、その字を二枚書  
くように、と言われ、それを教皇に大使館で見せし  
て、教皇が「サイン」をされ、バチカンにお持ち帰り  
になりました。

大変に光栄なことであります。佛教は何故不殺生戒を第一に上げているか、ということと同じであります。

十一月二十八日には新天皇御夫妻とお相いしました。一昨年十二月に、パリで行われた「ジャポニスム」に、曾て当寺に所蔵されていた伊藤若冲の『動植綵絵三十幅』と当寺に残されている「釋迦・文殊・普賢三尊仏」を展示して、パリの市民によるこんでいただきました。

この時は大入りで、雨の中にもかかわらず長蛇の列ができていて大盛況でした。皇太子殿下（現天皇陛下）

がお見えになり、私が説明すると、そのあとですぐさま、御自分の見解を述べられて、あらかじめ学んで来られていることを知り、おどろいた次第でした。

今年は、令和という新時代を迎え、「日本異次元文明論」が登場しました。私は来賓代表として祝辞を述べましたが、著者の庄司恵一氏は「日本人の根源的なメンタリテイについて、その源流を辿り、古代から改めて見つめ直してみたいと考えています。」とのことであります。この本は正に時機を得たものとして注目したいところです。



本派寺院、相国会、檀信徒の皆様、明けましておめでとうござ  
います。昨年に引き続き本年もどうぞよろしくお願い申し上げ  
ます。

昨年の日本列島は大型台風や集中豪雨に襲われ甚大な被害が  
出ました。又、陰惨な事件が相次ぎ暗いニュースが続きました  
が、被災地の一日も早い復興と、被害に遭われた方々の肉体的、  
精神的な回復と再生を願い、お見舞い申し上げます。そのよう  
な中、日本人ノーベル賞受賞者吉野彰さんのご活躍をはじめ、  
人類の発展と幸福のために力を尽くして来られた方々の活躍の  
ニュースは、これからの日本をはじめ世界に明るい展望をもた  
らしました。

相国寺派では昨年七月二十五日に集団得度式が挙行され、  
十四名の新しい僧侶が誕生いたしました。少子高齢化で、寺院  
においても過疎化が進み、僧侶の数の減少が著しいところ、新し  
い僧侶の卵の誕生は我々寺院の将来に希望を持たせてくれます。  
これからどのような僧侶に育っていくのか、また育てていくのか、  
私たちの責務の重さを認識しなければなりません。

さて、本年は管長及び宗務総長はじめ内局の任期満了につき、  
改選の年でもあります。今まで積み重ねて参りました宗制や諸  
規則の改正を始め、諸改革の事業はようやく実を結び、これから

はその規則に則った組織運営に、将来の相国寺派の命運が係っています。まだまだ解決しなければならぬ重要な問題は残っています。守るべき伝統をしっかりと堅持し、機能不全に陥ったシステムや古くなった慣習は改革する勇気を持って次世代へ引き継いでいかなければなりません。

今後はこれまで準備を進めてまいりました、三山（相国寺、鹿苑寺、慈照寺）をはじめ相国寺関連組織の連携を強化する為、情報や資料の整理と管理のための通信網と、ネットワーク環境の整備を図っていきたいと考えています。

近年、情報の流出、資料の改竄、遺棄といったことが問題になっていますが、そのようなことが起こらない管理システムの構築が必要であり、我々の組織においても情報や資料の整理と管理

は重要な課題であることは間違いありません。

具体的にはネットワーク環境の充実によって、三山の会計の総合的な管理と、古文書や宝物をはじめとするあらゆる歴史的資料の包括的な管理システムの構築を進めたいと考えています。これにより迅速かつ効率的な検索システムを利用して、さらなる相国寺研究の進展と、新たな視点からの情報提供が可能になると期待しております。その実現を目指して、残りの作業に取り組んで参りますので、どうか皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

本年は実り多き平和な一年でありますように。そして相国寺派のさらなる発展と皆様のご健勝をお祈りして新年のご挨拶といたします。



有馬頼底管長猥下、及び本派寺院御住職、相国会会員、檀信徒の皆様、新年おめでとうございます。本年も、相変わりませず、よろしく御願いたします。

昨年は、予想外の異常気象が続き、各地で大災害に見舞われました。被災なされた皆様に、心から御見舞い申し上げます。生活再建の道のりは容易なことではないと思いますが、健康に留意なされて、一日も早い復興を祈念いたします。

十月。日本ではじめて「ラグビーワールドカップ」が開催され、日本は念願の「ベスト8」を勝ちとりました。日本中が一つになって感動の渦に巻きこまれました。

同じく十月二十二日。天皇陛下が、内外に即位を宣言され、「日本国民の統合の象徴として、務めをはたします」と力強く述べられました。厳肅、荘重な儀式、感動しました。

今年は、八月「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。世界中が、日本国中が、興奮と感動の嵐に包まれるに違いありません。「日の丸」がいくつ掲揚されるか、どんな感動の場面があるか、大いに期待しています。

私事ですが、昨年初、高齢者叙勲で「瑞宝小綬章」ずいほうしょうじゅしょうを受章しました。高校の校長を勤め、八十八才まで生きてきたご褒美とか。

感慨深いものがあります。

私は、教師一筋六十余年、無事勤めることができました。偏に、大象窟大津樞堂老師のご慈悲と、雲水のみなさまの御指導、御助力の賜ものと、今、改めて感謝の念でいっぱいです。ありがとうございます。ございました。

僧堂での思い出は盡きません。高校三年生の四月、侍者寮中の延寿堂に仮寓の叔父片岡仁志のもとで書生としての生活が始まりました。

早朝四時、「トン、トン、トン」腹に響く「板木」の音で目が醒めました。板木には太く、大きな字で「生死事大 無常迅速 光陰可惜」と書かれてあります。自らを「覚醒」するひと打ちである

ことを知り、身の引き締まる思いがしました。

「粥座」をいただきました。「たくわん」を、私は、いつものように「ばりばり」と音をたてて噛みました。途端に「音をたてるな」と怒声がとんできました。びっくりして、あわてて飲み込みました。静寂無言の生活の中で、はじめて鉄鎚をいただき、目が醒めました。

延寿堂の濡縁で、初めて「コンロ」で火を熾し、ご飯を炊き、叔父と朝食をとる時、「般若心経、四弘誓願、五観の偈」を唱えてからいただきます。今までにない緊張をおぼえました。

大勢の雲水さんにご指導をいただきました。

とりわけ強く印象に残っているお二方がおられます。

僧堂名で失礼します。

然さん(宗然)桃源室 方谷浩明禅師(後に大徳寺派管長、僧堂師家とられました)

忍さん(宗忍)止止庵 梶谷宗忍禅師(後に相国寺派管長、僧堂師家とられました)  
のお二人です。

いつもお二人で、常に姿勢を正し、呼吸を整え、虚々然として、寸分隙のないお姿で、さつさつと歩いておられました。高潔な品格が備わり、近寄りがたい威厳がありました。お二人とも常に、さわやかな慈眼で接して下さいました。

忍さんの点てて下さる抹茶は格別。この上なくおいしくいただきました。

私は、後年、京都府立北嵯峨高校で校長を六年間勤めました。

その間、私は「僧堂流」のお点前で、校長室に座る人にはまずお茶を点て、共にいただいてから、用件に入ったものです。教わった「和敬の心」を大切にしていました。

又、私の唯一の趣味は「掃除」と「草むしり」です。僧堂で身につけたものです。

僧堂のみなさんの中で、どっぷり甘えた生活の八年間。改めて心から感謝いたします。



ぶつ どう てい かん  
仏道定款

大通院  
相国寺専門道場師家

小林玄徳

佛道定款

—YOUR GUIDE FOR  
DEATH EDUCATION—

第十一条 無常迅速

I 救急車

ピーポー、ピーポー、ピーポー。

誰かが救急事態。

向いのお父さん酔っ払って交通事故。

ピーポー、ピーポー、ピーポー。

隣の家に救急車。

油断している者に緊急事態。

ピーポー、ピーポー、ピーポー。

誰かが救急事態。

今日は元気で屈強な貴方が、

明日は救急車。

II 36度5分

脈拍が減ってくる。末期。

手のぬくもりの温かいうちに……。

早く手を握り締めて下さい。

瞳孔が開いた。臨終。

手のぬくもりの温かいうちに……。

強く手を握り締めて下さい。



大きく呼吸が戻る。最後の営み。  
もう、二度と再び温かくなることのない……。  
その手のぬくもりを。

永遠の別れ。大寂静。

もう、二度と再び戻らぬ36度5分。  
残して逝った最後の形見。

36度5分。人証<sup>ひとあかし</sup>。

その手のぬくもりが冷てしまわないうちに……。  
この手のぬくもりこそ命証<sup>いのちのあかし</sup>。

### 「持戒」油断大敵・用心専一

### 「仏法」生者必滅・生老病死・老少不定

一日に一、二回は救急車のサイレンの音が耳に響く今日。このサイレンを耳にするにつけても、煩惱・妄想の奴隷となっている自己に「ハッ」と気付

いて、油断していた自分を本来の平常心に戻すこと。用心を忘れると即座に雑念に誘惑されてしまうことを肝に銘じて頂きたい。用心綿密・油断大敵を禅の教えとしてもらいたいところだ。

第五条「平均寿命」でも示した通り、若くして亡くなる方も必ず居られます。家族との末期・臨終の別れに臨んで、その威厳の尊さ、存在の有難さを36度5分から覚って頂きたいと思えます。

正月早々から救急車だの臨終だのと縁起でもない第十一条をお届けして気の毒ではありますが、一年の計は正月に在り、一月の計は朔日に在りと申します。

令和最初の正月を迎えるに当り檀信徒の皆様にとって油断せず、用心専らにして修行して頂くことこそ、真に令和最初の新年正月の御めでたさに、一層の莊嚴を添えるものと思うのである。

お詫びと訂正

『円明』第一一二号二十頁二行目に左記のとおり誤りがありました。  
訂正してお詫びいたします。

(誤)癒<sup>いや</sup>し ↓ (正)諭<sup>さと</sup>し

# 続・テラーवादの風

〔後編〕

第四教区 潮音院住職 鈴木元浩



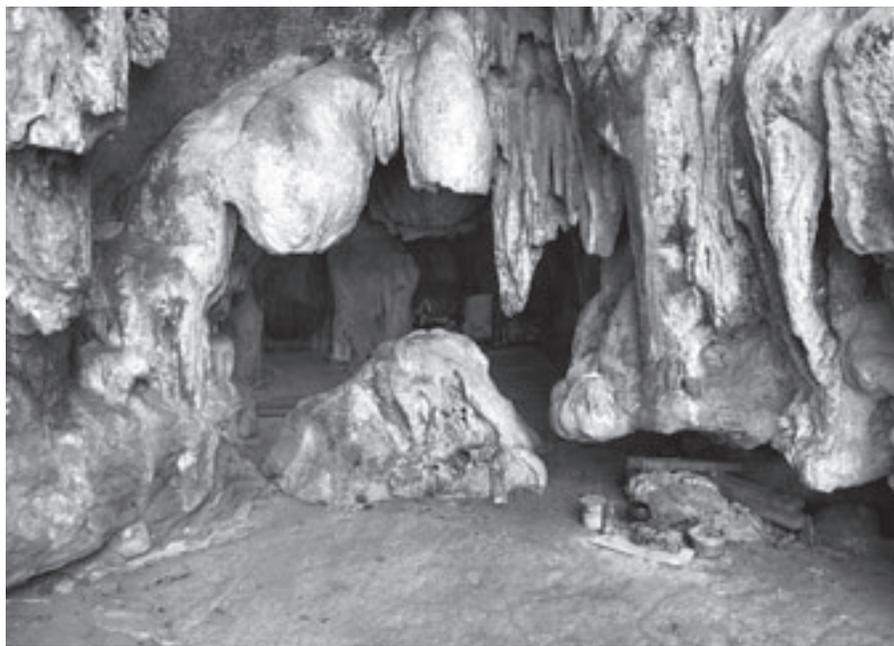
前号はダモ寺到着直後、恐怖のコブラのお話をいたしました。続きのお話をいたします。

昼間は先生を中心に、原始仏教哲学や、律(僧団で適用される法律)についての勉強会が行われます。その中で必ずといっていいほど福井比丘という方のお話が出ます。この福井比丘という方、私は一度もお会いしてはいないのですが、伝説的な人物で、日本の禅寺で出家された後、タイでも出家され、頭陀遊行を自らの旨とし、ある山を瞑想の場として毎日登り降りして生活していたそうです。登り降りといっても半端ではなく、ロッククライミング並みの絶壁です。そして現地の人々が彼の行動を見て、その山を聖なる場所と崇め、政府を無視して勝手に階段を



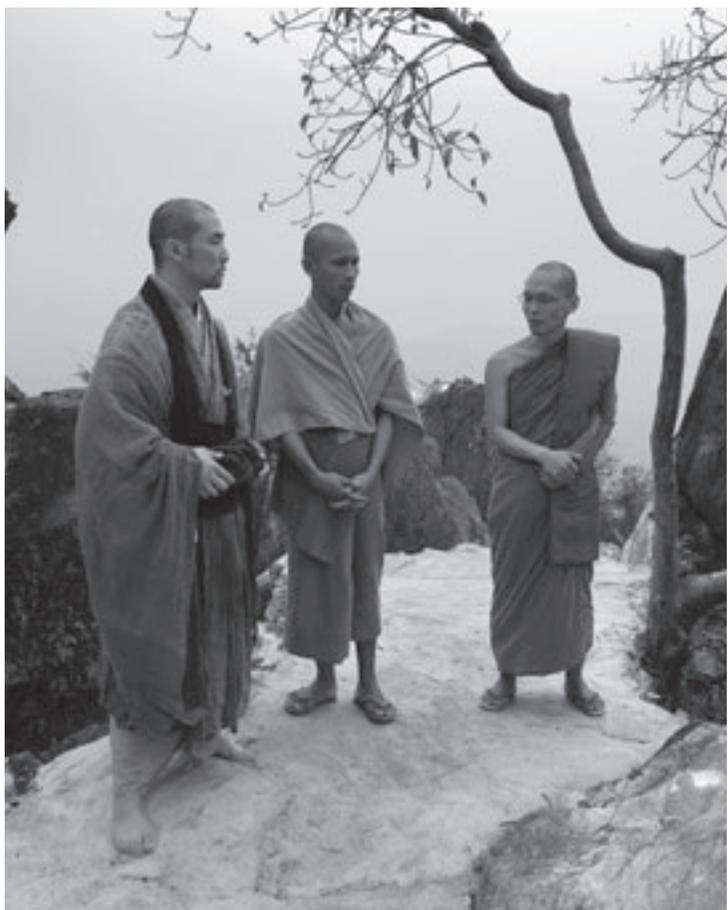
ダモ山の階段

造ったそうです。それが先にお話したダモ山なのです。私も研修時には必ず登るのですが、一〇〇〇メートル以上あるので、いくら階段になったとはいえ過酷であることには変わりありません。途中には彼が素手で登られた絶壁の箇所がいくつかあるのが見えるのですが、自力で登るために掛けたのであろう古い竹が今でも残っています。やつと登りきるとそこは雲海の上。仏塔が建てられています。しかしこれは後から建てられたものであり、本来の場所はその横に自然にできた鍾乳洞の穴。ここで彼は毎日生活していたそうですが、この洞窟は当然の如くコブラが出るそうで、なんと彼はへび取りの達人だったらしく、物ともせずに見えぬ隙にへびを捕らえていたそうです。しかしこの



山頂の洞窟

山頂にはコブラだけでなく、人も出入りするようになったので、さつさと別の場所へ遊行しにいかれたそうです。そのようなダモ山に野宿しろというのが今回の最大のミッションでした。しかも下見のために一度前日に行つて来いと言われ、二日連続計二往復するという



山頂にて(右が奥田比丘、中央がスピン比丘)

うことに。禅僧たるものの弱音を吐いてはならんという思いで遂行いたしました。宿泊当日のメンバーはというと、奥田比丘と山崎師と私、そしてスピン比丘という現地の比丘の四名。このスピン比丘、年齢は二十代で年下なのですが、とても心がおだやかで、何よりも男前。お釈迦さんの側近であったアーナンドーという弟子は、

非常に男前で女性にモテモテだったという言い伝えがありますが、彼を見てうなずけます。比丘の衣装は、下衣（下着）、上衣（メインの衣）、大衣（マント）の三衣と律では決まっています。これら合わせて袈裟と呼ばれるのですが、キュツと引き締まった体に纏われた衣。葉巻のような細身のシルエツト。そして地の一点を見つめながら托鉢に瞑想にと行ずる姿は、とても美しいものがあります。この姿に感激し、信者は施しをしたいという気持ちになるのでしょうか。日本の僧侶は少し幅のよい方々が多いような気がしますが、我々もこのような容姿を見習わなければなりません。顔だけは無理ですが。話はそれましたが、私たちは衣と簡易的なテントを持ち、研修最後の



仙人

晩をこのダモ山で過ごすこととなりました。ダモ山の麓には髭の老人が一人住み着いています。この方、なんと仙人らしく、主に占いをしていてるようですが、毎回行くとハンモックに揺られ、現地の人とただ茶をすすって談話しているだけです。いきなりポップコーンみたいなものを撒き始めるのでとても胡散臭いのですが、なぜかその洗礼を受けて山に登るのです。私も数回は登頂しているのですが、やはり暑さと階段の多さに辟易します。しかしそれを乗り越え、初めてそこで夜を明かしたことはとても素晴らしい思い出となりました。さすがにあの洞窟では瞑想できませんでしたが、坐禅をし、夜が更けていくなか、ろうそく一本のわずかな灯りをもとに、幻想的に揺らめく白い仏塔の前で比丘といろいろな考えや思いをぶつけあい、共に会話できたことが何よりも私たちにとって得難い経験となりました。次の日はそのまま托鉢しながら帰路に就き、この研修の最高の締めくくりとなりました。

さて前述のとおり、なかなかハードな数日間だったわけですが、肝心の三回目研修のテーマはどうであったかを少しお話いたします。それはある公案をもって拈提すること。拈提とは古則公案を提起して、工夫参究することです。その公案とは無門関第一則にある「趙州無字」。ある僧が趙州和尚にこう問うた。犬に仏性があるのか。趙州曰く、無と一言。雲水時代、老師から必ずといっていいほど出される臨済禅の基本たる公案です。私は僧堂掛搭以来、恥ずかしながらこれがずっと自分の中で拈提しきれておりませんでした。数々の公案を出されてきましたが、今思えばどれも中途半端であったことは否めません。

やはりこの基本の公案を自分のものになければ意味がないという思いに至ったわけです。無とは、何も無いという意味もありますが、ここは禪の境涯を表す言葉です。無いのに有る世界。有るのに無い世界。これはいったいどういうことなのか。前回では音ということに気づきがありました。ダモ寺では、夜は大きな声で鳴くトカゲ、朝になると托鉢しながら聞く鶏の鳴声、そして昼間はけたたましく鳴る蟬の音が日常です。これはもちろん耳識に響く音としての作用ですが、私は坐禅中、それらを純粋な感覚で受け入れることができませんでした。この経験を活かして今回は無というものを練ることにしてみました。すると、一つの言葉が頭に浮かんできました。それは輪廻です。

この国は、お寺に比丘にと大変な施しをします。ダモ寺には白いお城のような巨大な仏塔があるのですが、これはバンコクの資産家が一人で寄付されたそうです。また、寺には世間と比丘との橋渡しの存在として信者(優婆塞)が常駐しています。これも無償であり、自らすすんでお世話をする大変人気のある役目です。このような考えに至るのは、この国の人々が本気で来世を信じているからなのです。現世で出家者やお寺に対して供養することは、徳を積んで来世に良いところへ生まれ変わりたいという願望が強いからです。テラワダの比丘は何のために出家するのかというと、二度と生まれ変わらないために修行しているのです。天、人間、餓鬼、畜生、地獄、(後に修羅も加えられる)という世界が仏教では信じられています。もし生まれ変わったならば、それぞれの世界にも寿命があります。天国はとても良いところなのですが、ほかの世界よりマシなだけで、いずれは死ぬ

という苦しみが生まれる。その苦しみを無くすには、出家して釈迦の説いた教えを実践する。それが仏教での出家なのです。だから在家の人々は、仏教の象徴である仏、法、僧の三宝に帰依し、一生懸命に供養することによって、来世のために現世で功德というポイントを貯めているのです。

輪廻はそれほどこの人々にとっ  
ては大切な思想なのですが、それならば、もし本当に輪廻というものがあるならば、私たちは現世から遠い過去世までいったいどれだけの生まれ変わりを経てここまでたどり着いたのでしょうか。あのダモ山の階段では到底足らない数であります。その生まれ変わる過程において、ときには天に、ときには地獄に、そして犬や猫、昆虫に



輪廻を信じ、供養する村人

と生まれ代わりを繰り返してきたのではないのでしょうか。ならばあの時に私のクティを訪れた猫は、以前あそこでコブラに噛まれてしまった比丘ではないのかと思うのであります。そういう思いを馳せると、回りの動物や蝉の鳴声だけではなく、草木の風に揺られる音がより鮮明に私の中に入ってくるのです。犬に仏性はあるのか、虫に仏性はあるのか、仏に仏性はあるのか。そんな些末なことはこの限られた世界の問いであります。輪廻を思量する。これが無字の公案の言わんとする大事なことではないかと思うのです。人間が考える世界以上を越えたところ、犬はワンワン、猫はニヤンニヤン、蝉はミンミンというあるがままの世界が広がっていき、同じように今日もまた、私も人間の声を発するのであります。これは私なりに導き出した答えなので、祖師方からは無字にかすりもしておらんわとお叱りを受けるかもしれません。しかし少しでもこの公案を拈提できたことは、私にとって大きな財産となりましたのであります。

昔はみな自然に生き、このようなことを述べなくても当たり前のこととして生活していたのかも知れません。しかし文明が進むにつれ、何か大切なことを忘れてしまった時代になってきております。令和になり、私たちは日本人としての心をもう一度見直し、この素晴らしい元号に恥じない時代を創っていかなければならぬ、そう願うばかりです。そういう思いに気づかせていただいたタイという国、そしてここまで私を導き、助けていただいた方々に感謝し、これでこの話の締めくくりとさせていただきます。

# 相国寺の庭園

第七回

承天閣美術館北庭

植昭 長岡造園 長岡秀晃

今回は承天閣美術館の北庭を紹介させていただきます。この庭園は、普段皆さんの目に触れない美術館の北側に位置しているため、あまり馴染みのない庭園かと思います。既存の庭園の大規模改修という形で、二〇一〇年に作庭させていただきました。建物と建物との間のスペースを活用したL字型の庭園になっています。

この庭園は、美術館内の管長猥下のお部屋（萬松庵）の窓から見える景色を主としています。窓から一番遠い北側を水源とする川が、徐々に川幅を広げながらL字に曲がっていく形状になります。

水源部は滝石組になっており、

水の流れ落ちる様を白い石で表現しています。また、上流部では流れが荒く、水が泡立っている様を表すために大きめの砂利を使用し、流れが穏やかになる下流部では細かい砂利を使用して流れの変化を表現しています。

庭園で使用する景石は、山石と川石に大別することが出来ます。前者は角が取れておらずごつごつとした感じの石で、後者は長い年月をかけ、水に流されたり、風雨にさらされたりして角が取れ、丸みを帯びた石が多いです。実際の山や川を想像してみてください。山間部や川の上流にあるような石はサイズも大きく、まだ角も取れきっていません。一方、下流



萬松庵からの風景



滝口と上流

の石は角が取れて丸い物が多いです。作庭の際には実際の自然の風景に従って、違和感のないような石の使い方をしよう心がけています。

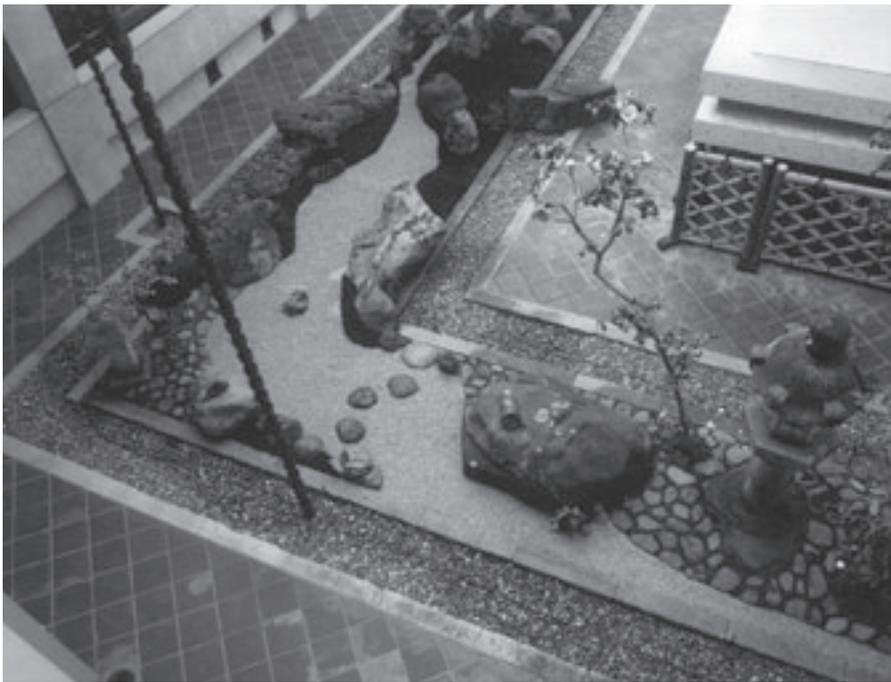
この庭園は元々、かずら石(長方形の延石)で囲まれた形のスペースの為、石や樹木をその枠内に納めきってしまうと、必要以上にこぢんまりとした庭になってしまう恐れがありました。見ている方の意識が「枠」とらわれないうようにするために、景石を大きくはみ出させたり、樹木をはみ出させたりすることで四角い「枠」を所々に消すようにしています。また、川岸や島にあたる部分は、苔や草本類・石等様々な素材を使

い、さらに起伏を付けることにより単調で平面的な庭にならないように気を付けています。

庭全体としては大きな自然を表現していますが、窓の近く(庭の手前側)まで近づいてくると、少々雰囲気に変化をつけてあります。石貼りと苔のミックスした島・小型の朝鮮灯籠・春日灯籠と、いうように、「人の手」が感じられるようになります。上流の山間部から下流の街に出てきたと表現してもいいかもしれません。ここで、川を横切るのに飛石が配されていますが、前述した川石の特徴通り、下流にあたる部分ですので小ぶりで丸い石を使用しています。本来飛石として使うには小さ



灯籠と下流部



講堂からの風景

い石ですが、この庭園は用(実用性)と景(見た目)という庭の考えから行くと景のみの庭園ですので敢えて使用していません。

植栽に関しては、中心部のヤブツバキを主木とし、枝ぶりの荒めのツバキを各所に配し、アクセントになるように滝口近くにウメを植えています。自然な雰囲気壊さないようにあまりきつい剪定は行わないことを心がけています。また、庭の一番奥には目隠しの為にカシとマルバヒイラギを配しています。現在はなくなりましたが、北側の学校を出来るだけ隠すことで、庭としての独立性を保ち、雰囲気を守っています。

美術館の建物は下部が一部抜けて高床式のようになっている場所があります。そこが抜けたままになっていると、庭にとって必要のない奥行きが出てしまいます。その対処法として竹の衝立を並べ、空間を区切ることで程よい奥行きに調整しています。

前述したように、萬松庵から見える景色が主なのですが、見どころがもう一つあります。美術館二階の講堂の窓からのぞき込むと、流れの形状や島の形・曲線の面白さを綺麗に見ることが出来るのです。普段公開されていない庭園ですので、講堂に入られる機会があれば是非ご覧になってみてください。

承天閣美術館という近代的な建物。そのすき間にある小さな庭園ではありますが、コンクリートで殺伐としがちな空気を和ませるような空間になっていれば庭師冥利に尽きます。

「お生命  
たしかに  
あずかります」

演劇塾 長田学舎 粟津もと



平成の代から、令和の代に変わって、初めてのお正月を迎えました。

昨年五月一日に令和となり、十月二十二日に「即位礼正殿の儀」で天皇陛下が御即位の宣言をされ、名実共に日本国の真の天皇陛下が誕生しました。

今年のお正月は、日本国民にとって、「充実した、安寧」の心改まったお正月であると思っております。日本国民の象徴としての新しい天皇陛下、皇后陛下の令和の世の歩みが嬉しくもあり、たのしみで大きな期待で胸をふくらませています。

「誕生」――。おさだ塾では、塾生の誰ももの心の中に、この言葉が、特別に存在しています。

御承知の通り、私共演劇塾長田学舎、通称おさだ塾は、今日まで六十九年の演劇活動が続けてまいりました。

中でも昭和五十年に第一回を上演しました『町かどの藝能』（作・長田純。京都新聞夕刊に五年半連載。文化出版局より上下巻出版。全国図書館協会選定本になる。ふたば書房よりも出版）は、観客完全参加の終日野外劇という新しい形の演劇で、初上演以来今日まで、休むことな

く続けてまいりました。おかげさまで昨年十月には、四十五周年記念公演を無事に終えることが出来ました。四十五年間、沢山のお客様やお世話になった方々に、有難く、深くふかく感謝致しております。

『町かどの藝能』は、江戸時代（享保年間）に芸をもって商げいいをしたあきんど商人の生活と芸能を演劇として再現したものです。おさだ塾の俳優は、今日までそれはそれは沢山の芸商人や見習いが誕生しました。

その一人一人には大切な生命いのちがあります。俳優はその生命をあずかって、稽古を積み重ね――芸商人に生きて成長していきます。

俳優は『町かどの藝能』に参

加することが決まったら、先ず

「お命わたし」を受けます。これは

演劇界、映画界、テレビ局などでいわれ



ている「配役」の事ですが、おさだ塾では、一人の人間が生まれることは生命が誕生することであり、それも江戸時代の芸商人として誕生するので、すから、大切な行事として厳粛に行います。

「お生命わたし」の当日、稽古場に塾生

全員が集まり、正面に向い、行儀よく

正座をして並びます。正面には立派

な文殊菩薩様の像とそのおひざ下

には亡き師長田純先生の御位牌と

お写真が置いてあります。

「お生命」をわたされる本人の名前が呼ば

れます。しっかりと声で返事をして前へ出ると、

姿勢を正して正座をして、両掌について待ちます。稽古場はピーンと

張りつめた空気がみなぎり、誰も呼吸をしていないのかと思える程静

かです。

「あなたに芸商人見習い 安吉さんのお生命をあずけます。江戸時

代、享保の御世にほんとうに生きていた人です。それを信じて、あなた



の心と身体でしっかりと安吉さんに生きて下さい」。紅白の水引がか、っているきつちりとた、んだ半紙がわたされます。



本人の横には先輩が一人ついてくれていますから、先輩の教えてくれる通り水引をとって半紙をひろげます。半紙の中央に墨で、それも草書で「多満たまたや藝商人見習 安吉」と書かれています。しばらくじつと見つめていますが、そばの先輩にうながされて、書かれている文字を指でなぞります。なぞった指先から腕を通して心の奥へ奥底へとどくように、しつかりと名前を入れていきます。この

半紙に書かれている名前を「お生命」といっています。

「有難うございます。多満や藝商人見習 安吉さん

のお生命、たしかにあずかります。一生懸命がんばります。どうぞよろしくおねがいます」

一と言ひと言かみしめるように、自分に言

い聞かせるように挨拶をします。そして

『町かどの藝能』の生みの親である長田

先生の前へ座り同じように挨拶をして、

後ろに並んでいる先輩達一人一人にも

丁寧に挨拶をします。それをうける先輩達は

「おめでとーございませす。私は藝商人幸吉さんの



お生命をあずかっています。見習いは見て習え、

聞いて習えということですから兄さん姉さんのする事、いう事をよく見て、聞いてがんばって下さい。一緒にがんばりましょう」等、それぞれ自分があずかっている「お生命」を前において挨拶を受けて、自分の経験から一と言助言を伝えます。

「お生命」をあずかって一人一人にきつちりと挨拶することによって、「私は安吉なんだ」という人物の意識立てがしつかりと出来て来るのです。

この様に時間をかけて、丁寧に「お生命わたし」をすました後、安吉の生国、家族、家業、おいたち、何故芸商人の道をえらんだのか等を細かく決めてわたします。この時、俳優個人の生活とは全く違った芸商人を作ってわたします。そうすることに因って、俳優は巾広い生活を識ることが出来、成長してゆきます。

もう一つ心がけていることは「お生命」を半紙に書くために墨を摩るのですが、その前に長田先生に「此の度、芸商人見習 安吉が誕生します。どうぞすこやかに成長していつてくれますようにおみまもり

下さい。おみちびき下さい」と必ずおねがいをします。そして短いけれど大変有難いお経「延命十句観音経」を何度も何度も唱え乍ら丹念に墨を摩っていきます。

この「お生命」を書いた半紙を俳優達はそれぞれ大切に持っています。『町かどの藝能』を上演展開する時は、必ず肌身につけるか、身近に持っています。芸商人として生きる時は「お生命」が大きな心の拠りどころになっているのです。

毎年十月中旬に上演します『町かどの藝能』の芸商人たちは、今年も亦、一人一人があずかった大切な「お生命」をしっかりとって、芸商人としての生活と藝能を踏み込んで―稽古を積み重ねて、お客様とお目もじする日にむかって歩んでまいります。

どうぞおたのしみにお待ち下さい。



## 本山だより (令和元年七月～十一月)

### ○同宗連 第三十四回部落解放基礎講座

七月三日、四日大本山妙心寺(京都市右京区)に於いて、第三十四回部落解放基礎講座が開催され、本派からは佐分昭文師(第一教区豊光寺副住職)、有浦宗健師(同長得院副住職)の二名が参加した。

には書院にて佐分宗務総長より祝辞を受け、お祝いのお齋を頂いた。

参加者名は左の如し(教区・台番順)

(本文71ページを参照)

### ○第四回 衆団得度式

七月二十五日、第四回衆団得度式が挙行され、全国より十四名の戒徒が参加した。

当日は書院にて有馬管長との戒師相見の後、佐分宗務総長や戒徒親族が見守る中、矢野教学部長の司会の元、方丈にて厳肅に式が執り行われた。戒徒達は緊張した面持ちで管長の剃刀を受け、安名と鉢盂を授与され、仏弟子としての第一歩を踏み出した。式終了後

第一教区 林光院徒 澤 宗心・澤 宗華

光源院徒 荒木基皓

瑞春院徒 須賀太玄

眞如寺徒 江上晴亮・江上寛亮

是心寺徒 和田大乘

第二教区 南洲寺徒 矢野暮南

感應寺徒 芝原尚祥

光明寺徒 松本美優・松本拓昇

永徳寺徒 松下晃樹・松下竜樹

松下真樹

(巻頭カラー2ページを参照)

○第六十六回 暁天講座

八月二日、三日の二日間、第六十六回暁天講座を開催した。両日とも例年通り、五時半受付開始、六時より坐禅、六時四十五分より講演。その後、大書院では七時半から粥座があり、参加者一同作法に従ってお粥をいただいた。

本年の講師は、初日に公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事の冷泉貴実子氏が「江戸時代の上京」、二日目に有馬管長が「伏見宮家と禅宗」という演題でそれぞれお話いただいた。

冷泉氏は上京文化振興会の会長でもあり、上京区設立百四十年記念事業の上京大文化祭でも活躍されている。当日は平安時代より豊臣秀吉のころまでの京の都の推移、江戸時代の御所周辺の状態を、現代を引き合いに出しつつ分かりやすくお話しいただいた。

有馬管長は、本山塔頭寺院大光明寺飛び地境内の出町妙音堂弁財天ゆかりの西園寺家の話から、相国寺や大光明寺の歴史についてお

話しいただいた。

両日とも早朝から大変な暑さの中ではあったが、多数の参加者を迎え盛況であった。



坐禅中の参加者



講演する有馬管長



講演する冷泉貴実子氏

○慈照寺「大文字送り火散水消防訓練」

八月十六日、慈照寺(銀閣寺・佐分宗順住職)では勤務職員による自衛消防訓練を毎年実施している。これは、当日お盆精霊送りの行事として、境内背後にある大文字山で「五山送り火」で知られる「大」の字に点火されるのに先立ち行われているもので、飛び火の警戒を兼ねて建物に放水される。

通常拝観業務終了後より、組織された本部、隊長指揮下のもと各課職員より防火責任者を中心に、境内各所に設置されている消火栓などを使用し、観音殿(銀閣)、東求堂(いづれも国宝)をはじめ本堂などへ配置の順番に迅速かつ適切な放水訓練を実施した。

設置されているポンプ、放水銃など諸設備の動作確認を行うだけでなく、緊張感を持って繰り返し訓練に取り組むことで、不測の事態になった場合に少しでも的確に対応できるように、僧侶、職員、警備関係者、地元消防署一丸となって今後も境内堂宇や庭園の護持に

努めていくことを確認する機会となった。また、十月二十七日にも日没後に全職員対象の自衛消防放水消火訓練を実施している。

このように、慈照寺では夜間の訓練も含めて定期的な消防訓練の実施、あるいは他所の講習に参加するなど、職員一同防火防災への意識づけを待つように心がけている。

(巻頭カラー4ページを参照)

#### ○中国四会六祖寺来山

八月二十八日中国広東省より四会六祖寺釋大願師、釋登覺師一行八名が来山した。

到着後管長祝下との相見にて互いの健康を祝い、中国大相国寺との友好記念碑の話から現在も続く相国寺の日中交流を話題に歓談された。

相見後は法堂、承天閣美術館、大相国寺との友好記念の鐘楼を見学され、帰山の途に就かれた。



四会六祖寺(しえろくそじ)一行と有馬管長



釋大願師と有馬管長

#### ○室町小学校坐禅会

九月十日室町小学校六年生の坐禅体験があり、学童五十名、引率者二名が参加した。この坐禅会は平成十五年から毎年行われており、当日は矢野教学部長の挨拶の後、坐禅を体験した。その後方丈と法堂を拝観、承天閣美術館を見学し下山した。

#### ○令和元年度秋期特別拝観

九月二十五日より令和元年度の秋期特別拝観を行い、法堂、方丈、開山堂が十二月十五日まで一般に公開された。

春期特別拝観は、三月二十四日から六月四日まで、公開場所は法堂、方丈、宣明(浴室)の予定である。

#### ○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が、秋晴れのもと十月二十日(宿忌)、二十一日(半斎)の両日にわたり厳修され、第四教区若狭より一〇六名

(寺院十名を含む)、第五教区出雲より三六名(同寺院一名)、第六教区宮崎より四名(同寺院一名)の相国会会員の団体参拝があった。

二十一日は、九時より法堂において小林老大師導師のもと献粥諷経にはじまり、諸堂焼香、奠供十八拜が行われ、引き続き檀信徒、総代、本派寺院、天龍寺一山、臨済宗黄檗宗各本山、他宗派寺院の順に入堂し、管長導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴呪行導が厳修された。続いて、開山塔(開山堂開山像真前)にて諷経がなされ終了した。

また法堂では相国寺総代、相国会会長や同会員、檀信徒ら列席者と教学部で共に「般若心経・白隠禪師坐禅和讃」諷誦を行い、代表者には焼香をしていただいた。



礼拝する出頭寺院一同

管長香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

心印伝来活祖禪

心印伝来、活祖の禪

舌頭落處辨機宣

舌頭の落處、機宣を辨ず

道香郁々不遮掩

道香郁々、掩を遮らず

直至如今遍界辺

直に如今に至りて、界辺に通し

頼底九拜

定中昭鑑



香語を唱える管長

#### ○天龍寺開山忌

十月三十日、京都市右京区の本本山天龍寺において開山夢窓国師毎歳忌半斎法要が厳修され、相国寺より佐分宗務総長以下計十名が出頭した。

#### ○第三十九回 寺院婦人研修会

十一月七、八日の両日、第三十九回相国寺派寺院婦人研修会が行われた。初日は午後十二時半参集、一時より方丈で本尊・開山各諷経後、佐分宗務総長より開会挨拶、有馬管長より訓示をたまわった。記念撮影後、大書院にて坐禅を行った。

その後、寺務棟二階において相国寺史編纂室研究員の中井裕子氏を講師に、「蔭涼軒日録の世界」という題で、講義をたまわった。

翌日は朝修了式の後、天台真盛宗総本山西教寺(滋賀県大津市)の特別参拝を行った。大変実りある研修会であった。

今回は以下の教区より次の十八名が参加した。



坐禅する参加者



西教寺境内を散策する一同

◇参加者名簿(教区・台番順)

第一教区 澤万里子・澤洋子(林光院)

山木佐恵子・山木喜要子(普廣院)

久山順子(慈照院)

荒木寛子(光源院)

草場容子・中山文教代(慈雲院)

佐分厚子(豊光寺)

平塚久恵(養源院)

第二教区 和田真弓(是心寺)

鈴木典子(長栄寺)

第四教区 田中温子(円福寺)

石崎典子(海岸寺)

五十嵐多賀子(善應寺)

第六教区 矢野志保(南洲寺)

芝原由紀子・芝原聖子(感應寺)



方丈記念写真

## 坐禅会のご案内

### 本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催  
(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、経典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院

時間：午前九時より十一時迄

内容：坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。  
初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀：服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

### 東京維摩会

本年の開催日は左記の通りです。

会場：相国寺東京別院 方丈・客殿

### 有馬管長坐禅会

一月十一日(土)、二月二十二日(土)、三月十四日(土)、四月十一日(土)、五月九日(土)、

六月十三日(土)、七月十一日(土)、九月十二日(土)、十月十日(土)、十一月七日(土)、

十二月十二日(土)(八月は休会です)

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

注意点：五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀：服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、

スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

### 小林老師坐禅会

一月二十五日(土)、二月十五日(土)、三月七日(土)、四月十八日(土)、五月十六日(土)、

六月二十日(土)、七月十八日(土)、八月二十二日(土)、九月五日(土)、十月十七日(土)、

十一月二十二日(日)、十二月十九日(土)

時間：午後一時より三時半迄

内容：『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

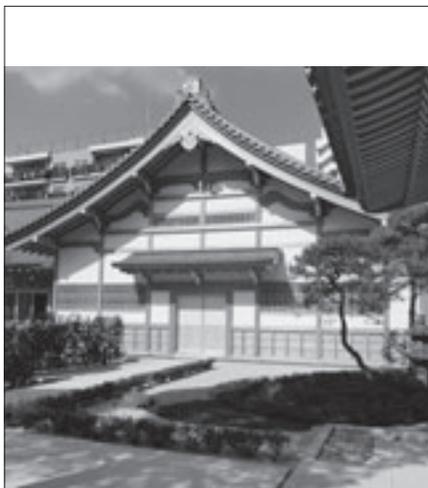
注意点：五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

満員の場合はやむなく御断りする場合もございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。

肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材（デニムなど）は避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧ください。相国寺東京別院（電話〇三―三四〇〇―五八五八）までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858

会場：方丈・客殿  
〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

## 教区だより

### 第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講大峰山入峰

大峰山・興福寺・丹波一之宮出雲大神宮参拝  
毎年六月に大峰山に入峰修行する相国寺信心教社第一号連山組にて、同行入峰修行される塔頭光源院住職荒木元悦和尚は、住職就任以来昨年六月の入峰で五十一回目の入峰修行を無事終えられた。

六月七日午前九時より、光源院行者堂に於いて前行を行い、道中安全、家内安全の祈願を役員及び、今回で七回目の入峰をされる院号授与者の他、多数の参拝者と共に行い、翌日八日早朝六時堀川今出川を家族等に見送られながらバス一台で新緑の大和路を一路奈良県吉野郡天川村の洞川とろがわに向かう。十時半宿泊所になる洞川西村清五郎指定旅館到着、早めの昼

食手弁当をとり直ちに入峰に向かう。晴天に恵まれて、入峰日和で新客を先頭に山上に向かう。

最初の行場「西にしのぞら」も事故無く無事に終える。新客は裏行場へ、他の者は本堂に向かう。新客の行を無事に終え、全員揃った所で勤行を行う。参詣後、各自全員無事下山し、夕食後旅館にて宿泊する。

翌日九日は午前五時半起床、六時に龍泉寺水行場に於いて新客と共に般若心経を唱えながら水行を行う。終って西村旅館にて朝食をとり、全員龍泉寺へ参拝後洞川を出発する。バスにて法相宗大本山興福寺を参詣し、昼食後亀岡へ向かい、丹波一之宮出雲大神宮へ参詣する。参詣後、湯の花温泉「溪山閣」にて小宴、午後七時半溪山閣を出発し、堀川今出川に八時半全員事故無く帰着した。そろって万歳

三唱して目出度く解散した。

※興福寺中金堂

中金堂は藤原不比等ふじわらのふひとが興福寺の最初の堂宇として、和銅三年(七一〇)の平城遷都と同時に創建された。創建当時の規模は奈良朝寺院の中でも第一級であったと言われている。当初は藤原鎌足かまたりゆかりの釈迦如来を中心に、薬王、薬上菩薩、十一面観音菩薩二一軀、四天王、さらに養老五年(七二二)に橘三千代みたちが夫不比等の一週忌供養で造立した弥勒浄土の群像が安置されていた。創建より六回の焼失、再建を繰り返した。

○慈照寺「千体地蔵、八幡宮、弁財天祭礼」

八月二十四日、慈照寺に於いて境内各所にある千体地蔵、八幡宮、弁財天でそれぞれ祭礼の法要を佐分住職導師のもと厳修し、門前関係者、御用達各業者代表、職員代表者が列席した。

千体地蔵は、観音殿(銀閣・国宝)の初層の

仏間「心空殿」に安置されているもので、室町時代作の地蔵菩薩坐像と、その周囲の小さな千体地蔵菩薩立像からなるものである(通常非公開)。また、鎮守の八幡宮は銀閣の隣に、弁財天は東求堂の山側にある小祠であるが、これらは拝観者も参ることが出来る。

祭礼に備え、七月二十六日には慈照寺執事と各課職員が比叡山無動寺の弁財天(滋賀県大津市)と石清水八幡宮(京都府八幡市)にそれぞれ参詣し、古いお札の納札、新札の授与を賜り、それぞれの祠に祀られた。



大峰山 法相宗興福寺 令和元年6月8日入峰 連山組46名



鎮守八幡宮前で諷経する住職以下参列者

○慈雲院齋会

九月二十五日、塔頭の慈雲院(草場周啓住職)において、先住樋口月堂和尚大士忌(二十五回忌)の法要が営まれた。

当日は好天に恵まれ、有馬頼底管長、国泰寺澤大道老大師、相国僧堂小林玄德老大師をはじめ、相国寺山内寺院、法類寺院の御出頭を賜り、盛大な法要であった。



月堂和尚頂相



礼拝する草場住職、手前は中山周真副住職

○都石材本山墓地バケツ寄進

今秋、都石材様(京都市北区)より相国寺本山墓地へ墓地参拝者用のバケツを御寄進頂いた。老朽化が目立っていたものだったため、参拝者の方々にも大変喜ばれている。



都石材墓地バケツ寄進

第二教区

○第二教区相国会支部総会

六月二十二日午前十一時より花園長栄寺に



長栄寺にて開催の総会参加者

於いて例年の二教区相国会支部総会が開催された。当日は相国会費を集めたあと、出席者二十九名全員で本堂にて般若心経等を諷経して総会に入った。会計報告、事業報告等がなされた。昨年本山で行われた相国会員研修会に二教区から多数の参加者があったことが報告された。

総会が終わって、宝ヶ池のホテルに移動して懇親会がなされ、出席者の親交を深めた。

#### 第四教区

##### ○宗務支所 教区研修会

六月四、五日、広島研修を行った。佛通寺(広島県三原市)・平和公園にて諷経、翌日、福山神勝寺を拝観した。

##### ○若狭相国会 役員会

六月十二日、真乗寺に於いて開催した。本

部役員会報告等を行った。

##### ○宗務支所 支所会

七月十七日、真乗寺に於いて開催した。お盆の日程調整、開山忌団参について協議した。

##### ○宗務支所 落慶法要

九月二十三日、藏身寺(五十嵐祖傳兼務任職)に於いて本堂屋根葺き替え落慶法要を厳修した。法類及び近隣和尚五名、工事関係者二名、檀信徒多数出席し盛大に行われた。

##### ○宗務支所 支所会

九月二十五日、真乗寺に於いて教区支所会を開催した。開山忌団参の参加者の最終確認をした。

##### ○宗務支所 開山毎歳忌団参

十月二十一日、相国会会員九十六名住職十名、合計一〇六名参加。本山法要参拝後、伏見

稲荷大社に参詣した。

##### ○宗務支所

十月二十七日、鎌倉東慶寺 釈宗演老師没後百年記念法要に出頭した。教区より善應寺和尚、円福寺和尚の二名が出頭した。

#### 第五教区

##### ○出雲相国会親子坐禅会

七月二十五日、「夏休み親子坐禅会」を富田寺で開催した。親子五十八名、世話人二十名、総勢七十八名の参加があった。

ラジオ体操を行った後、富田寺、西光院両和尚の指導のもと坐禅。坐禅終了後「白隠禅師坐禅和讃」を唱和し、参加証が子供に渡された。

その後ビンゴゲームをして、プレゼントを渡された。参加者は一生懸命にゲームを楽しんだ。



坐禅和讃を唱える一同



第五教区 本山開山忌団体参拝

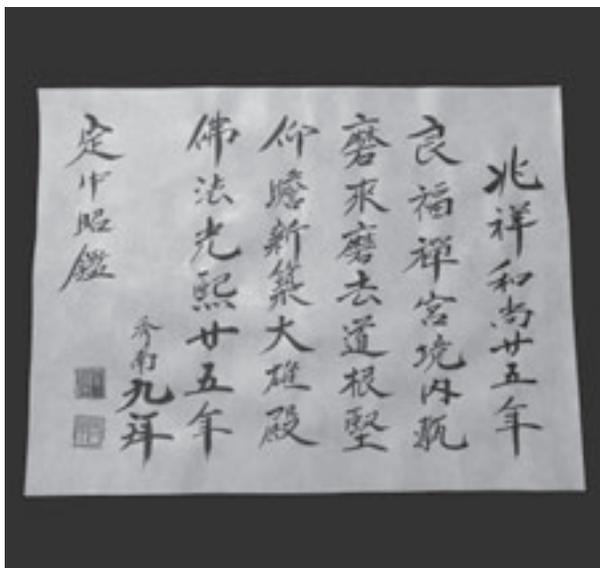


坐禅する子供たち

## 第六教区

○良福寺 齋会

九月十一日、良福寺(近藤永進住職)にて先住近藤兆祥和尚大士忌(二十五回忌)が厳修された。



農華室老大師香語

○本山開山忌団体参拝

十月二十日、二十一日例年通り本山開山忌に合わせ、団体参拝を行った。参加者は三十六名。

二十日は比叡山延暦寺(滋賀県大津市)を参拝し、開山様の経歴をパネルにて見学した。その後、臨濟宗大徳寺派満月寺(滋賀県大津市)の浮御堂に参拝した。

二十一日は法堂で開山忌に列席したのち方丈で精進料理を頂いた。皆さん喜んで召し上がられた。承天閣美術館にて開催中の「茶の湯」展を拝見したのち、万博記念公園(大阪府吹田市)の太陽の塔の中で、生命の樹を見学して帰路に就いた。

先師の学友である妙心寺塔頭靈雲院 則竹秀南老大師を導師に迎え、妙心寺派大生寺 五葉会諸師、六教区寺院、檀家総代・世話人、親族ら七十名が参列された。

先師の遺訓を継いで落慶に至った伽藍にてその遺徳を偲んだ。



集合写真

## 第三十四回

# 「同宗連」部落解放基礎講座レポート

第一教区 豊光寺副住職 佐分昭文

今回の講座に出席させて頂き、自分の今までの差別に対する認識の甘さ、また知識の無さを痛感し自分が講座で学んだ事を反芻して今後の自身の課題に就いてレポートを書くに当たり明らかにして行きたいと思えます。

講座に当たっては今回三名の講師の先生方に御講義頂きました、初めにDVDで被差別戒名物故者追善法要・WCRPⅢにおける町田発言・ハンセン病患者隔離政策・狭山事件といった現代までの差別問題を詳細に描かれた映像を流し見せて頂きました。

その後に講座一の講師 岩田浩然氏に「宗教と部落差別」という題で御自身の教職時代の学校現場での差別の実態、それに対して真摯に向き合い歩んでこられた経験談から、弱者や苦しんでいる人のそばに居て傍らに立ちその苦しみ、耳を傾ける事の大切さ、また差別に対して自分だけでなくその問題を多くの人間と共有して行くことが大事だと教わりました、また差別というものは個人個人の意思にかかわらず差別する側の立場に置かれて

いる人間の問題であり、日常生活に於いての差別意識の認識・改善の大切さを感じました。次に講義二の講師 片岡明幸氏よりパワーポイントを使った「部落差別の現状と課題」というテーマの元、現代に於ける差別の実態についてアンケートを用いた調査の結果や、二〇一二年のプライム問題を題材に今なお婚礼や就職の際に行われている不正身元調査の実態から、みようとしなければ見えない差別が有り差別の被害を訴えようにも公に出れば二次被害にあう恐れから声を上げる事の出来ない多くの人がいる事、また現代に於いて同和教育をする事自体が場合によっては差別を助長する恐れがある事をお教え頂きました。

二日目の最終講義三では講師 森本泰弘氏より「被差別部落の歴史に学ぶ」というテーマで中世社会起源説の元、江戸時代の身分制度からの穢多・非人という身分の者たちに対する当時の差別扱いの実態の詳細等、また明治四年の解放令布告があったもののその過激さ故に彼らの於かれる立場は更に困窮を極めさらなる差別を生みだした事、そして大正一一年に被差別部落の者たちが自ら立ち上り水平社が結成された後やつと同和問題が政府を初め広く社会一般から注目され深い関心を持たれるようになったことをお話し頂き、講座の締めと成りました。

この講座を通して宗教者として差別という物の歴史をしっかりと把握し差別のない社会の為日々努め時には弱者の傍らに立ち戦うことが大事であると感じました。

## 第三十四回

# 「同宗連」部落解放基礎講座レポート

第一教区 長得院副住職 有浦宗健

今回、七月三日、四日の二日間の日程で、部落解放基礎講座を受講させて頂きました。初めてこの様な講座を受講しましたが、大半の受講生が初めてということで、基礎講座の名に違わず、本当に分かりやすい講義でした。

実際の講義では、私が今まで知らなかったことや知っているつもりになっていたことを、講師の先生方が、初学者が誤解していそうなことを特に留意して話を進めてくださったのはありがたかったです。

ここからは各講義について報告させていただきます。

### 講義一 宗教と部落差別問題

講師 岩田浩然師(浄土宗西山禅林寺派人権擁護推進室長)

この方は大阪府枚方市で中学校の教師をされていた方で、在職中に実際にあった差別問題を例に、今回非常に理解しやすく、また心に迫る講義をして頂きました。

まず、差別とは差別する側の問題であるということについて講義を進めていかれました。同宗連発足のきっかけとなった一九七九年第三回世界宗教者平和会議での「日本に部落差別はない。部落差別問題を理由にして騒ぐ一部の人達がいるだけ」という発言や、一般に言われる部落解放を訴える人がいるから部落差別は無くならないという意見のように放っておけば部落などという認識も無くなると考えている人は多いが、現実には、そういった差別をする人や、部落差別を声高に発信する人が一人でもいる以上、部落への認識や差別は無くならず、無くす為の活動も続けざるを得ないという説明でした。聞いてみればなるほどと思いますが、自分を顧みると、部落解放同盟の活動は頑張りすぎでないかと思っ

ている私もいて、反省させられました。

続いて、見る事、気付く事の重要性について、教員時代の実際の授業を例に解説して頂きました。町へ出て子供の目線で気付いた事、疑問に思ったことを調べていくという授業で、現場に立って考える事が、ただ聞くだけの授業よりも生徒の血肉となって成長させるという話から、我々宗教者も、今苦しんでいる人のその苦しみに気づき、傍らに立つことの重要性を溶かれました。振り返るに、自分の今までの立ち位置は、あくまで一歩引いた第三者のものでしかなく、考え方も決して苦しんでいる人と同じ目線ではなかったと自覚させられ、今後はより意識的に行動していくべきではないかと考えさせられました。

## 講義二 部落差別の現状と課題

講師 片岡明幸氏(部落解放同盟本部副委員長)

続いて登壇された片岡氏は、若い頃から部落解放同盟で活動を続けておられ、その見地から現在も続く部落差別問題についてお話を頂きました。

この講義を受けて一番驚いたのは、現在も部落差別問題に関して係争中の裁判が存在するという事。しかもその裁判の発端となった問題はたった三年前の二〇一六年に起こったものであったという事でした。

なぜこういった問題が次々と出て来てしまうのか。片岡氏は理由の一つとして、差別を商機と捉え、あおる事で利益を得ようとする存在がいるという事を挙げています。実際三年前の問題も、戦前に作られた被差別部落地名一覧を現在の地名に合わせて編集したものを出版しようとしたという事だったそうです。

この話を聞き、私は、現在の差別は、過去の慣習によったものではなく、むしろそれにより利益を得ようとする存在によるのではないか、根底にあるのは人々のモラルの問題なのではないかと考えました。

また、今まで私が勘違いしていました事に、部落は人里離れた所ばかりではなく、町の中の一区画などでも存在しているという事がありました。実際考えてみれば当然のこと

ですが、部落の人々が他では行われない特定の職を担っていた事や、それが人々の生活に密接に関わっていたと知っていても、聞くまではイメージが先行して、部落は隔離されて行き来しにくい所と思っていた為です。知っていても見たり触れたりしないとやはり大きな穴が出来てしまうと改めて実感させられました。

### 講義三 被差別部落の歴史に学ぶ

講師 森本泰弘氏(花園大学人権教育研究センター研究員)

最後となるこの講義では、こういった環境で差別が生まれたのか、また、歴史の中で被差別民の立場の推移を通して、彼らがどのように困窮していったのかを説明頂きました。

まず前提として、彼らに対する認識が私の持っていたものとは違っていたという事がありました。中世頃の彼らへの認識はあくまで人外であり、身分制度の外側の存在であつて人の下に来るものではなかったという事です。

彼らは特殊な職能集団であつたり、下級の神職であつたりと人々の畏れと関わつてきた存在であつた様です。それが時代ごとの指導者に利用され、時を経て人が畏れを忘れる事で彼らの立場は次第に困窮していったのでしよう。

話の中で、江戸時代までは被差別民の中にも裕福な者がいたという事、明治期の解放令によって彼らは職権を奪われ、生活基盤を弱体化させていったという事を知り、半端ないメージだけで彼らを認識していたのだと改めて思い知らされました。

そして彼らが歴史の中で、常に人の中から外されてあつたという事、私達宗教者も差別戒名などの形でその後押しをしてしまつていた事は、絶対に忘れてはならない事であると思います。

二日間の講義を受講して自分がいかに同和問題について無知であつたか、世間のイメージに流されて知つたつもりになつていたかを思い知らされ、全く恥じるばかりでした。それでも今回の講師の方々の、今もなお続くこの問題を知つてほしい、解決の為に何か少しでも動いてほしいという熱意は強く印象に残りましたし、また、自分に何か出来るのなら、と強く思われました。

これを機に、同和問題に関する知識を更に深め、実際の活動も、より身近なものとして、宗教者として、また一人の人間として関わっていききたいと思ひます。

【講義録出版】

一般財団法人京都仏教会の宗教と社会研究実践センターとの共催で開催した宗制と宗規に関する一連の講演及び研究会の記録を発刊しました。

「信教の自由と宗制・宗規」

令和元年七月一日発行

編集 相国寺教化活動委員会 京都仏教会宗教と社会研究実践センター

目次

① 「国法と宗教法人の自治規範との対立・調整に関する研究」についての研究討論

講師 大石 眞氏(京都大学名誉教授)

平成二十九年十一月二十五日

相国寺教化活動委員会 於 相国寺

② 「宗制・宗規とは何か？」

講師 洗 建氏(駒澤大学名誉教授)

櫻井圀郎氏(東京基督教大学元教授)

平成三十年八月四日

京都仏教会 宗教と社会研究実践センター第二回公開研究会 於 相国寺

③ 「宗制・宗規とは何か？」

講師 長谷川正浩氏(全日本仏教会顧問弁護士)

藤田 尚則氏(創価大学法科大学院教授)

平成三十年九月二十六日

相国寺教化活動委員会・京都仏教会 宗教と社会研究実践センター 於 相国寺東京別院

①は大石 眞京都大学名誉教授の科研費補助金による学術調査に関して、調査依頼を受けた相国寺始め各宗教団体からの疑問と疑念に答える形で大石眞氏のご講演、引き続き出席宗教団体、学者からの質疑応答を納めました。



②と③は①の議論をふまえ、宗制・宗規に関する講演を掲載いたしました。  
以上京都仏教会との共同出版となりました。

## 【研修会案内一】

小川隆氏による禅宗史の講座

テーマ 「禅の特徴」

講師 小川 隆氏(駒澤大学名誉教授)

日程 第一回 令和二年一月二十八日(火) 午後二時三十分～

第一講 禅宗の特徴(一) 伝燈の系譜

第二回 令和二年一月二十九日(水) 午前十時～

第二講 禅宗の特徴(二) 清規―仏道の生活化・生活の仏道化

第三回 令和二年一月二十九日(水) 午後一時～

第二講 禅宗の特徴(三) 問答と公案

時間 いずれも約二時間(質疑応答 約三十分含む)

会場 相国寺寺務棟 二階講堂

## ◇講師プロフィール

一九六一年生。岡山市出身。駒澤大学大学院仏教学専攻博士課程満期退学。博士(文学、東京大学)。現在、駒澤大学教授・花園大学国際禅学研究所顧問。

著書に『臨済録―禅の語録のことばと思想』(岩波書店、二〇〇八年)、『語録の思想史―中国禅の研究』(岩波書店、二〇一一年)、『禅思想史講義』(春秋社、二〇一五年)などがある。

## 概要

禅宗は、しばしば坐禅の宗教と定義されます。むろん、禅宗にとって坐禅が重要であることは言うまでもありませんが、しかし、坐禅だけで禅宗を規定することもできません。では歴史の上に存在した中国禅宗の特徴は、どのようなところにあったのでしょうか？ 上記の三回に分けて、ご紹介してみたいと思います。

## 【研修会案内二】

相国寺事務棟二階講堂で行われた京都仏教会の理事会で採択され記者発表された、宗教行為、宗教材に対するキャッシュレス決済に反対する声明を受け、キャッシュレス社会の問題点を取り上げます。

貨幣経済のあり方が大きく変わろうとしている現代社会においてキャッシュレスの流れを否定することは出来ません。近年キャッシュレス経済の普及に伴い宗教界にもその波が押し寄せてきており、ただ利便性と収益だけでキャッシュレス決済を無批判に受け入れようとする宗教団体も出てきています。

キャッシュレス社会について宗教界はいかに対応するべきか、信教の自由と政教分離を守り、宗教の尊厳を守るために、この問題は今最も真剣に取り組まなければならない問題です。教化活動委員会では左記の通り研修会を開催いたします。

## 記

テーマ 「キャッシュレス社会の問題」

講師 梶谷 懐氏(神戸大学大学院経済学研究科教授)

高口康太氏(フリージャーナリスト、翻訳家)

日程 第一回 令和元年十二月十七日(火) 午後一時三十分～ 終了済

テクノロジーがもたらす『幸福な監視国家』

講師 梶谷 懐氏

第二回 令和元年十二月十九日(木) 午後一時三十分～ 終了済

すべてがデジタル化する国・中国、社会と宗教はどう変わりつつあるのか？

講師 高口康太氏

第三回 令和二年一月十六日(木) 午後一時三十分～

中国社会と「公共性」について

講師 梶谷 懐氏

第四回 令和二年一月二十日(月) 午後一時三十分～

私たちはどこまで「監視」を受け入れるべきか、中国という事例から考える

講師 高口康太氏

いづれも

午後一時三十分 講義

休憩

午後三時三十分 質疑

場所 相国寺事務棟二階講堂

## 梶谷 懐

一九七〇年、大阪府生まれ。九四年、神戸大学経済学部卒、九六〜九八年中国人民大学に留学(財政金融学院)、二〇〇一年、神戸大学大学院経済学研究科より博士号取得(経済学)。神戸学院大学経済学部准教授などを経て、二〇一〇年より神戸大学大学院経済学研究科准教授、一四年より同教授。

著書に『壁と卵』の現代中国論(人文書院、二〇一一年)、『現代中国の財政金融システム』(名古屋大学出版会、二〇一一年、大平正芳記念賞)、『日本と中国、「脱近代」の誘惑』(太田出版、二〇一五年)、『日本と中国経済』(ちくま新書、二〇一六年)、『中国経済講義』(中公新書、二〇一八)、『幸福な監視国家・中国』(NHK出版新書)高口康太氏との共著がある。

## 高口康太

フリージャーナリスト、翻訳家。一九七六年、千葉県生まれ。千葉大学(人文社会科学研究所博士課程)単位取得退学。

二度の中国留学経験を持ち、中国をフィールドの中心に『週刊ダイヤモンド』『週刊東洋経済』『Wedge』『ニューズウィーク日本版』『ヤフーニュース特集』などの雑誌・ウェブメディアに、政治・経済・社会・文化など幅広い分野で寄稿。中国の現実から感じた自らの驚きを、そのまま読者に伝えることを目指している。

独自の切り口から中国・新興国を論じるニュースサイト「KINBRICKS NOW」を運営。

著書に『なぜ、習近平は激怒したのか——人気漫画家が亡命した理由』(祥伝社)、『現代中国経営者列伝』(星海社)、『幸福な監視国家・中国』(NHK出版新書)梶谷懐氏と共著がある。

各講座および研修会の『講義録』をご希望の方

は、一冊につき手数料一千元を添え、下記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「活動」・「研修会」・「書籍案内」をご覧ください。

申込先

相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五一一三一一〇三〇一

FAX〇七五一一二二二三五九一

ホームページ(<http://www.shokoku-j.jp>)

相国寺史編纂室だより — 足利義根の相国寺来訪① —

天明の大火(天明八年(一七八八)から十七年後の文化二年(二八〇五)、焼亡した伽藍の復興が進む相国寺に突然の客人が来訪しました。その名は足利又太郎義根。室町幕府十四代將軍足利義栄の弟義助の末裔です。

足利義栄は、永祿八年(一五六五)に十三代將軍足利義輝が松永久秀によって暗殺された後に、当時畿内を支配していた三好三人衆に擁立されて十四代將軍に就任しましたが、同十一年に足利義昭を奉じて上洛した織田信長と対立し、まもなく摂津富田において病没した人物です。

弟である義助は、義栄が將軍に就任したときは故郷である阿波国(現在の徳島県)平島荘に留まっています。義栄の死後に上洛を試みますが、保護者である三好家の没落もあって果たすことができず、天正十三年(二五八五)に初代徳島藩主である蜂須賀家政が阿波国

に入部すると、百石扶持の客将待遇で徳島藩の家臣団に組み込まれたのです。

義助の孫義次の代には、蜂須賀家の命令で足利家から平島家へと改称させられるなど、特別な権威を持つ家が領内に存在することを好まない藩から冷遇を受けることになりました。そして文化二年、義栄から九代目にあたる義根が、病氣療養を名目に阿波国を退去し、上洛して姓を足利に復したのです。

同年八月二十八日、等持院に滞在していた義根は、天龍寺を介して相国寺に文書を送りました。そこには、「拙者は内々に等持院の靈光殿に廟参したが、体調が悪くなったので、保養のため貴寺に滞在させて欲しい」と書かれていたのです。

相国寺における義根の活動は、次々回に紹介します。

(相国寺史編纂室 藤田和敏)

忌名

没年

一周忌(小祥忌)	平成三十一・令和元年(二〇一九年)
三回忌(大祥忌)	平成三十年(二〇一八年)
七回忌(超祥忌)	平成二十六年(二〇一四年)
十三回忌(称名忌)	平成二十年(二〇〇八年)
十七回忌(慈明忌)	平成十六年(二〇〇四年)
二十三回忌(思実忌・念三回忌)	平成十年(一九九八年)
二十五回忌(大士忌)	平成八年(一九九六年)
二十七回忌(念七回忌)	平成六年(一九九四年)
三十三回忌(冷照忌)	昭和六十三年(一九八八年)
五十回忌(五十遠年忌)	昭和四十六年(一九七一年)



※年忌法要の詳細については、各菩提寺にお問い合わせください。

創業明暦年間



登祿 高祿 **七味家**

〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221  
TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352

ゴヨウハシチミヤ  
**0120-540738**  
9:00~18:00(冬季は9:00~17:00)  
<http://www.shichimiya.co.jp/>

夢のある空間づくりのパートナー



トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理  
**TOTAL DISPLAY**  
**FUSHIMI KOHGEI**  
株式会社 伏見工芸

[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地  
TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465

[宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地  
TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254  
e-mail: fushimi\_d1.dion.ne.jp

税理士 奥谷 昌雄  
税理士 内藤 誠

〒602-8026  
京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地  
TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461

*Future Active Alliance*

**office やまと**

パソコンからネットワーク・サーバ構築まで  
IT環境のトータルアドバイザー

本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土屋ノ内町19-13  
TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494

中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極地大寺町29-62  
TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0370  
E-Mail: info@office-yamato.net



寺社の電気、空調、防犯、防災設備

有限会社 **土橋電気設備**

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4  
まちゃまちゃ 105号  
TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332

こころをつたえる

和文具 和雑貨

株式会社 **表現社**

〒602-0861  
京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る  
TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354  
<http://www.hyogensha.net/>

お茶会・式典・作品展 など  
イベントのお手伝いは弊社へ



イベント設営・レンタルの京老舗  
てらおかしものてん  
有限会社 **テラヲ貸物店**

〒602-0029 京都市上京区室町通上立売上る室町頭町279番地の5  
TEL 075-414-1464 FAX 075-414-1474  
E-mail office@terao-rental.com  
URL <http://www.terao-rental.com>

式典写真、風景写真など  
あらゆるニーズにおこたえます!

**柴田明蘭**  
写真事務所

(公益財団法人) JPS 日本写真家協会 会員

☎ 090-8387-7735  
FAX 075-311-9369

〒615-0057 京都市右京区西院東長町24 シェルブリュール 603

大本山相国寺御用達

社寺建築 (株)北村誠工務店

〒603-8225  
京都市北区紫野南船岡東町45  
電話京都 (075) 441-0563  
FAX京都 (075) 441-0571

精進料理

〒604-1835  
京都市中京区大宮通錦上ル  
電話〇七五八二二一三八七二



大本山相国寺御用達

庭園 設計・施工

**樋口造園株式会社**

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル三軒町77  
電話 (075) 462-1385  
FAX (075) 464-6120

大本山相国寺御用達

御法衣・仏具

(株)後藤利法衣店

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル  
電話 (075) 221-4587  
FAX (075) 223-0094  
フリーダイヤル (0120) 014587

大本山相国寺御用達

精進料理

矢尾 治

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358  
電話 (075) 841-2144  
FAX (075) 841-2110  
<http://kyoto-shoujinyouriyaoji.homepage.jp>

文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達

社寺建築 設計・施工  
数寄屋建築



澤甚株式会社 澤野工務店

本社  
〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入  
TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775

山科事務所・工房  
〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)

貴重な御法衣の御用は  
大本山相国寺御用達

後藤新助法衣仏具店

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地  
電話(代表) (075) 462-3915番  
ファクシミリ (075) 462-3616番  
URL <http://www.rinzai.jp>  
E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp

天和三年創業 大本山相国寺御用達

**藤安田念珠店**

〒604-8072  
京都市中京区寺町六角角  
TEL (075) 221-3735  
<http://www.yasuda-nenju.com>





大本山相国寺御用達  
寺社庭園・町屋庭園・露地庭  
作庭 管理

**植昭** 長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3  
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

金沢本社社屋 東京本社社屋



なくてはならない印刷会社を目指して—  
ヨシダ印刷グループは、業務効率化と情報伝達に関する「なくてはならない」  
製品・サービスを提供することで、お客様の発展と新しい社会の実現に貢献します。

**ヨシダ印刷株式会社 関西支店**

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-8-3 新大阪サンアールビル北館6F  
TEL.06-6305-7888 FAX.06-6305-7300 URL <https://www.yoshida-p.jp/> 【営業所・工場】 富山・金沢本社・江東潮見  
【金沢本社】 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141(代) 【東京本社】 〒130-0014 東京都墨田区電圧3-20-14 TEL.03-3626-1301(代)



情報セキュリティマネジメントシステム  
ISO27001:2013



日本水なし印刷協会  
認可工場 (環境安全対策)



JAPAN  
COLOR  
標準印刷認証  
ヨシダ印刷株式会社  
金沢本社工場  
江東潮見工場

養料 温故知新を織る……

**株式会社 龍村美術織物**  
URL <http://www.tatsumura.co.jp/>

関西店 〒615-0022 京都市右京区西院平町25  
ライフプラザ西大路四条2階  
TEL (075) 325-5580 FAX (075) 325-5606

関東店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-1  
八重洲中央ビル5階  
TEL (03) 3562-1212 FAX (03) 3562-1230

大本山相国寺御用達  
京仏具・仏壇

株式会社 **佛光堂**

〒600-8033  
京都市下京区寺町通仏光寺下る  
(四条寺町、南へ200M、西側)  
TEL(075) 351-4092 FAX(075) 351-7231

大本山相国寺御用達

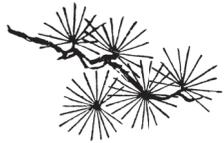
京都市指定  
有限会社 **丸水設備工業**

- 上下水道衛生設備 ● ポーリング井戸 ● 消火栓設備
- 庭園池の濾過設備 ● お墓の雨水処理 ● 設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32  
TEL (075) 462-8888(代) FAX (075) 462-8998



www.shoyeido.co.jp



# 香



大本山相国寺御用達

## 香老舗 松榮堂

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595  
東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969  
札幌支店 / 札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅薰々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店



世界の歴史都市、  
京都の中央に位置し、  
世界文化遺産「二条城」の前に佇む  
ANA クラウンプラザホテル京都。

### ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前  
Tel 075-231-1155  
www.anacpkyoto.com

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…

京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

## 京都銀行

# JTB

感動のそばに、いつも。

## JTB京都中央支店

〒600-8421 京都市下京区域小路通烏丸西入童持町 167 A14 四条烏丸ビル 2F  
TEL:075(284)0173 FAX:075(284)0153  
(営業時間 9:30~17:30 / 土・日・祝日休業)

# 大本山相国寺御用達

文化財保存修理・文化財デジタル複製・文化財 IPM 調査・文化財調査  
一般表具・絵画企画製作・漆/金箔施工・宗紋襖紙/御殿引手発売元

京表具 <sup>こう</sup> 浩 <sup>えつ</sup> 悦 <sup>あん</sup> 庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町 318 番地  
TEL(075)254-6021 (代) / FAX(075)254-6022  
東京営業所 TEL(042)442-0177 oversea@koetsuan.com  
www.koetsuan.com E-mail:art@koetsuan.com

毎月15日・23日は

三菱UFJ信託銀行の個別相談会 無料  
予約制

毎月15日は 遺言の日  
毎月23日は 不動産の日

三菱UFJ信託銀行 京都支店 お申込みはこちら TEL. 075-211-7168 電話受付/平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)  
京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

## 抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位  
自園茶 農林水産大臣賞 30回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶

まんねんのみどり  
萬年乃羽羊

御薄茶

じょうこう  
常光



大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地  
お問い合わせ(0774)200909  
●西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業  
京都市中京区西洞院通御池下ル  
電話(075)2230909  
●ジニアル京都伊勢丹店地下一階  
●京都高島屋店地下一階和菓子売場  
【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店  
www.marukyu-koyamaen.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

## 橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側  
電話(075)221-0934番 振替京都01090-4-3476

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



URL <http://matsuishuzo.com>



享保十一年創業 清酒「五紋神蔵」醸造元

**松井酒造株式会社**

京都市左京区吉田河原町1の6 電話 075 (771) 0246

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

**A**DACHI **足立電気工業株式会社**

〒601-8045

京都市南区東九条西明田町34-21

TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767

E-mail: [adachi-d@guitar.ocn.ne.jp](mailto:adachi-d@guitar.ocn.ne.jp)

相国寺東京別院施工



誠心誠意 美しく正しい仕事を



株式会社 **水澤工務店**

東京都江東区木場5丁目6番地1号

TEL 03-3641-7111

URL [www.mizusawa-inc.co.jp](http://www.mizusawa-inc.co.jp)



皆さまのお役に立てる、

コインパーキング。

着実に、一歩一歩。

**キョウテク株式会社**

本社

TEL **075-365-8000** FAX **075-365-8080**

〒600-8172 京都市下京区下平野町483番地1

● 編集後記 ●

◇新年あけましておめでとうございます。令和の御代で最初に迎えるお正月に本派御尊宿、並びに相国会々員の皆様、関係各位におかれましても静泰なる心持と拝察いたします。円明113号をお届けいたします。

◇御代替わりの年に、本派では本紙記事にあります様に、十一年ぶりの衆団得度式が挙行されました。戒徒、師僧寺院様、関係者の皆様にはお慶び申し上げます。また、戒徒の皆様には新しい時代にふさわしい御活躍を期待いたします。

◇昨年も各地で台風や集中豪雨による甚大な被害がおこりました。被災されました関係各位におかれましては、改めてお見舞い申し上げます。それにしましてもここ数年毎回災害被害へのお見舞いを申しておりますが、現在の地球環境では残念ながらこれからも同じ状況が予想されます。人類の経済優先のエゴによる負荷に、長年長年耐えてきた地球からの大きなしっぺ返しを今受けています。しかし我々が、国が、世界が思いを一つに環境保護の為に邁進すれば、今度は少しずつ少しずつ回復するはずであります。それこそ地球の長年の忍耐への贖罪として、人類が長年かけてでも回復のための道筋を作り、現状の改善を行っていくことが何よりも大事であります。そのことが結果的に将来多くの人命を救うことになります。

◇また今号も各方面より貴重なる御寄稿を賜り、誠に有難うございました。誌面を借りまして御礼申し上げます。特に数年来老若男女をお導き頂きました、僧堂師家小林玄徳老大師の「仏道定款」が今号を持ちまして一応の筆了となりました。老大師におかれましては雲衲接化、ご法務御多端の御身にありながら、会員諸氏の為に玉稿を賜りました。御懇情厚く御礼を申し上げる次第であります。

◇最近見たニュースによると数十年前にくらべて、現在は冬期が約一か月短くなっているようですが、短くなった冬でも厳しい寒さは変わりありません、各位におかれましてはどうかご自愛いただきたいと存じます。本年も何卒、宜しく願い申し上げます。

(矢野謙堂 記)

えん みょう  
円明 令和2年正月号(第113号)  
令和2年1月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591  
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail [kyogaku@shokoku-ji.jp](mailto:kyogaku@shokoku-ji.jp) (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

想いをかたちに 未来へつなぐ

**TAKENAKA**

竹中大工道具館(兵庫県神戸市)  
設計施工:竹中工務店

株式会社 竹中工務店

**DNP**

歴史を未来につなぐ技術。

冠たられ、これまで培ってきた印刷技術と情報技術を生かし、  
かけがえのない文化遺産の保存と継承に貢献しています。

未来のあたりきえをつくる。

日本印刷株式会社

# 相国寺 春の特別拝観

京都今出川  
鳴き龍の寺

令和2年3月24日(火)～6月4日(木) 拝観時間：午前10時～午後4時

※4月8日(水)は、法要・行事のため拝観時間に一部変更があります。

拝観場所：法堂・方丈・浴室

拝観料：一般・大学生800円／65才以上・中高生700円

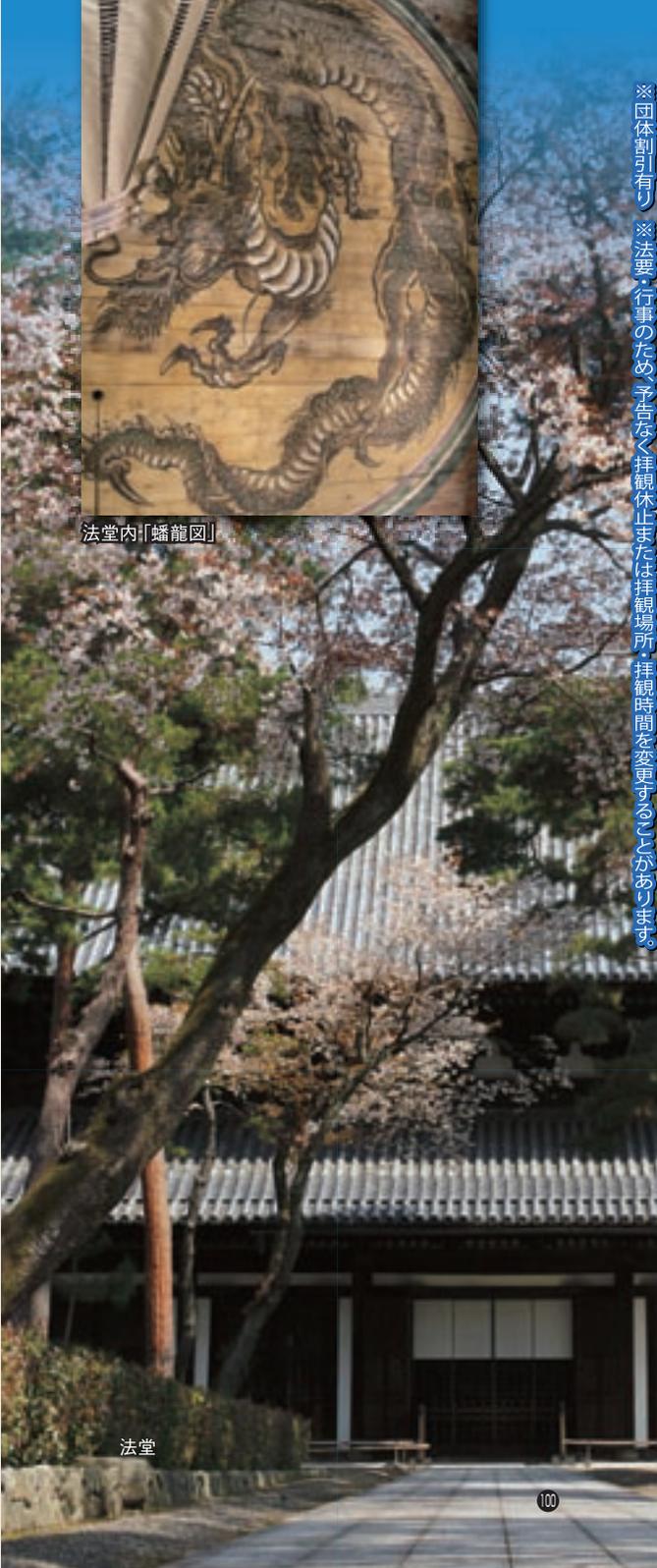
※団体割引有り ※法要・行事のため予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。



法堂内「蟠龍図」



浴室「宣明」



法堂

宝物  
拜見

せき  
れい  
鶴 鶴

ほと  
鳩

お  
なが  
どり  
尾長鳥

にわとり  
ず  
ぎ  
びょう  
鶏凶座屏

かのう  
たん  
ゆう  
狩野探幽筆

一対 絹本彩色 江戸時代 慶安元年(一六四八) 相国寺蔵



座屏とは、禅宗寺院に多く用いられる一対の小屏風を指す。本座屏は相国寺第九十五世住持で鹿苑寺の独住第三世をつとめた鳳林承章(ほりりんしょうしょう、一五九三～一六六八)が、幕府御用絵師である狩野探幽(一六〇二～一七四)に注文して作成された。その経緯が『隔黄記』に詳細に残る。それによると、慶安元年(一六四八)三月二日、鳳林は探幽に絹地を渡して座屏の絵の制作を依頼する。九月六日に探幽より絹の押絵四枚が届く。そこに描かれたのは、竹に鶏、柳に尾長鳥、梅に鳩、荷葉に鶴、という組み合わせの花鳥画であった。鳳林は届いた翌日、七日には表具屋に表装を依頼し探幽へ礼状を送っている。そして十五日に、諷経を終えた一山の和尚達に披露された。その後、九月二十八、二十九日に行われた開山三〇〇年忌において、本品は方丈室中入口の両側に飾られたのである。

作品解説／承天閣美術館 学芸員 本多潤子

## アイコム EXCOM エクスカーション



ICOM(国際博物館会議)の大会が2019年に日本で初めて開催され世界120の国と地域から約4600人の博物館専門家が京都に集まりました。相国寺承天閣美術館でも9月6日にエクスカーション(体験型見学会)として加わり各国の博物館学芸員に相国寺の歴史や魅力を解説しました。

### 教育プログラム 小学生団体解説

2019年9月10日近隣の室町小学校生徒50名が当館に訪れ、学芸員が解説を行いました。参加した生徒たちは学芸員の説明に熱心に耳を傾けていました。



### 「茶の湯—禅と数寄」展 大西清右衛門氏 記念講演

2019年11月23日に「茶の湯」展を記念し千家十職で釜師の大西清右衛門氏を招き講演会を開催いたしました。「釜の鑑賞と楽しみ方」と題し当館収蔵の釜の解説や茶釜の魅力について熱く語っていただきました。



### 現在の展観

## 「茶の湯—禅と数寄」

Ⅱ期 1月11日(土)～3月29日(日)

日本文化を代表する、茶の湯。その歴史は禅とともにありました。相国寺、そして鹿苑寺、慈照寺など塔頭につたわる名物茶道具を、禅の精神性が宿る美術品とともに紹介いたします。



国宝 玳瑁散花文天目茶碗  
相国寺蔵



### 関連イベント

記念講演 「長次郎と光悦とわたし」 講座 「禅寺に息づく茶」  
 講師 楽直入氏 講師 本多潤子(当館学芸員)  
 日時 1月25日(土) 14時～ 日時 2月22日(土) 14時～  
 参加料 無料(当日の拝観券が必要) 参加料 無料(当日の拝観券が必要)

### 次期展覧予定

## 「いのりの四季 —仏教美術の精華」

4月12日(日)～7月19日(日)

室町時代から約六百年、相国寺は京都とともにあり、変わらず祈りの場として四季が巡ってきました。

本展覧会では、相国寺に連綿と続く仏教行事に焦点を当て、承天閣美術館に収蔵されている宝物がどのように各儀礼を荘厳してきたのかをご披露します。

観音図 狩野探幽筆  
江戸時代 相国寺蔵



とわ  
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ



代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間 / AM 8:30~PM 6:00 (日曜日PM 5:00まで)

本社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ  
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)  
工場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 電話(075)702-2440  
(洛北病院バス停前)  
夜間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

嗔拳不打笑面 (槐安國語)

嗔拳 しんけん 笑面を打たず  
怒っていても、笑う顔には勝てません

撮影◎教學部